



第135号
野毛山幼稚園
横浜市西区老松町30
TEL045-231-0150

暑い夏にこそ思う・平和を守る！

野毛山キリスト教会牧師
野毛山幼稚園園長 奈良昌人

「実に、キリストは

わたしたちの平和であります。」

(エフェソの信徒への手紙2章14節)

2022年7月の本紙巻頭言に「これまでにない速さで夏を迎え、6月23日(木)にプール開きをして、子どもたちは水あそびをたくさん楽しんできました。」とありました。今年はそのより早い6月19日(木)がプール開きでした。その後西日本では27日(金)に観測史上最も早い「梅雨明け」となり、関東も間もなくでしょう。プール、水あそびの時、年長組は「ラジオ体操」、年中組は「手のひらを太陽に」、年少組は「ペンギンのプール体操」にあわせて体操をしてからプールに行つて、思いっきり水あそびを楽しみます。暑い夏に子どもたちが水あそびをしている光景は平和そのものであり、この光景を絶対に守らなければなりません。

暑い夏にこそ思うこと：今年の8月15日は第二次世界大戦の終結から80回目の終戦(敗戦)記念日です。かつて日本は米英中

などの連合国に宣戦布告をして戦争をし、結果負けました。それから80年。敗戦の記憶が薄れていくというよりも戦争をしていくこと自体、忘れ去られているような今です。世界ではこの瞬間にも、ロシアのウクライナへの侵攻、正義の名のもとにイスラエル(米国も)とハマスそしてイランの相互の攻撃で、たくさんさんの尊い人命が失われ、未来が奪われています。今こそ、日本が戦争に敗れて80年間戦争をしなかったことを覚え、平和を守ることをあらためて決意する時ではないでしょうか。

「手のひらを太陽に」の作詞者であり、子どもたちが大好きな『アンパンマン』の作者・やなせたかし氏(1919年2月6日〜2013年10月13日)は、著書『ぼくは戦争は大きらい』の中で、自らの戦争体験、軍隊体験を語り、過去の戦争のことが皆さんの記憶に少しでも残ればいいと言います。やなせ氏の部隊は上海郊外の朱溪鎮(現在は朱家角鎮)という町で倉庫のような建物を接収して本部を置きました。困ったことは食料節約命令で、食事は朝晩だけ、それもお飯はうすいお粥。腹が減ってしょうがない。お粥で戦争するのはムリ。食料を買いに行くのと怒られる。お腹が空いても我慢。タンポポや野草も食べた。部隊の中には、器用に皮をピーツとむいて焼いた蛇を食べる人もいました。やなせ氏はダメでした。イナゴや蜂の子もだめです。「その時に骨身にしみて感じたのは、食べる物がないうとがどんなに辛くて情けないか、でした。

いろいろ辛いことはあっても、空腹ほど辛いことはない。アンパンマンが自分の顔を食べさせてあげるの、このときのぼくの体験があったからです」と言っています。

そして、「戦争の原因

は「飢え」と「欲」ではないか。腹が減ったから隣国から取つてこようと、領土でも資源でもちやんとあるのにもっと欲しいという思いが戦争につながる」とし、「ただ、人間はいい生き物だから、なんとかできるのではないか。ぼくが『アンパンマン』の中で描こうとしたのは、分け与えることで飢えはなくなるということと、嫌な相手とでもいっしょに暮らすことはできるということです。」と言っています。またアンパンマンと正義については、「飢えている人に食べ物を出す行為は立場が変わっても国が違っても「正しいこと」に代わりはありません。絶対的な正義なのです。」と語ります。

思いました。飢えている人に自らを差し出す行為：イエス・キリストは霊的に飢えているすべての人のためにご自身を十字架に捧げて愛を示してくださいました。このキリストこそが私たちの平和そのものなのです。世界の平和を祈り、家庭の中から、平和を守る夏にしましょう！

